

第8回 全国被災地 語り部シンポジウム in 和歌山

～200歳の語り部－巨大地震と津波を考える～

2023年3月18日(土)

広村堤防

稲むらの火の館(濱口梧陵記念館・津波防災教育センター)

広川町民会館

和歌山県有田郡広川町広572

参加
無料

定員
100名

「稲むらの火の館」は170年前、幕末の旧暦11月5日夕暮れに起こった安政南海地震と津波災害を現在まで語り続けています。濱口梧陵翁の巨大地震津波直後からの軌跡を顧みた上で、心に響き残るICT技術の進化を含めた多様な語り継ぎとその手法、次の災害への備えを皆さまと一緒に考えます。



広村堤防



【プログラム】

■3月18日(土)

- 【第1部】10:00～11:00 広村堤防 語り部まちあるき
- 【第2部】11:00～12:00 稲むらの火の館 見学
<濱口梧陵記念館・津波防災教育センター>
- 【第3部】13:15～15:00 広川町民会館 シンポジウム
 - 開催挨拶 実行委員長 山地 久美子
 - 歓迎挨拶 広川町長 西岡 利記
 - パネルディスカッション「200歳の語り部－巨大地震と津波を考える」
 - 崎山 光一 (稲むらの火の館館長)
 - 杉本 伸一 (雲仙岳災害記念館館長)
 - 米山 正幸 (北淡震災記念公園総支配人・野島断層保存館)
 - リチャード・ハルバーシュタット (震災遺構・門脇小学校館長)
 - 池田 尚弘 (広川町教育長)
 - 金 千秋 (エフエムわいわい代表理事)
 - 平林 英二 (人と防災未来センター企画ディレクター)
- 【第4部】15:10～16:40
 - [分科会1] 全国の災害語り部の取組みと歴史
 - [分科会2] 文化・社会の語り部～平時からの取組み
- 【第5部】16:45～17:00 総括・「和歌山語り部宣言」

展示

- 全国・海外の被災地 語り部の取組み パネル紹介
- 災害体験を伝える被災者の作品
- 語り部ぼうさい俳句

プログラムの詳細・参加申込方法は裏面をご覧ください



シンポジウムHP

<https://www.nojima-danso.co.jp/kataribe/>

<https://forms.gle/qNuC3K7cYxQZvTBM7>



申込フォーム

無料マイクロバス【特別運行】 予約制

JR湯浅駅 ⇄ 稲むらの火の館 又は 広川町民会館

往路 JR湯浅駅 発	復路 広川町民会館 発
① 10:45 → 稲むらの火の館	④ 17:30 → JR湯浅駅
② 11:55 → 稲むらの火の館 広川町民会館	⑤ 18:00 → JR湯浅駅
③ 12:55 → 広川町民会館	

■主催:「第8回全国被災地語り部シンポジウム in 和歌山」実行委員会

(稲むらの火の館/野島断層保存館/北淡震災記念公園震災の語り部ボランティア/オペラ・ディ・フィオーレ FMわいわい/多文化と共生社会を育むワークショップ/雲仙岳災害記念館/南三陸町地域観光復興協議会)

■共 催:学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)課題番号20K20781

◆特別協力:株式会社ほくだん 南三陸ホテル観洋

◆後 援:和歌山県 和歌山県教育委員会 広川町 広川町教育委員会 時事通信社和歌山支局 共同通信社和歌山支局 NHK和歌山放送局 テレビ和歌山 和歌山放送 FM和歌山 朝日新聞和歌山総局 読売新聞和歌山支局 毎日新聞和歌山支局 産経新聞社 神戸大学地域連携推進本部 大阪公立大学地域防災センター

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため定員数を調整して開催します